

【参考資料】

1 義務教育学校と小中一貫校との違いについて

義務教育学校と小中一貫校は、どちらも小学校と中学校の 9 年間を一体的に教育する学校ですが、制度上の違いがあります。

義務教育学校は、学校教育法で定められた新しい学校の種類で、小学校と中学校の区切りがなく、1 つの学校として運営されます。

一方、小中一貫校は、既存の小学校と中学校を連携させたり、併設したりして、一貫した教育を行う学校を指します。

○義務教育学校

制度：学校教育法で定められた新しい学校の種類(2016 年施行)

運営：小学校と中学校の区切りがなく、1 人の校長の下で 9 年間一貫して教育を行う。

特徴：柔軟な学年制やカリキュラム編成が可能で、中 1 の壁の緩和などが期待される。

○小中一貫校

制度：既存の小学校と中学校を連携させたり、併設したりして、一貫した教育を行う形態。

運営：小学校と中学校がそれぞれ独立している場合や、併設されている場合など、形態は様々。

特徴：6-3 制(小学校 6 年間、中学校 3 年間)を基本とする場合が多い。

義務教育学校は、制度として新しく、1 つの学校として 9 年間を一体的に運営するのに対し、小中一貫校は、既存の学校を連携させることで、一貫した教育を行う形態を指します。

	義務教育学校	小中一貫校	小中一貫型 小学校・中学校
施設の形態	施設一体型	施設一体型	施設分離型
修業年限	9年 前期課程 6年 後期課程 3年	小学6年 中学3年	小学6年 中学3年
教育課程	★9年間の教育目標の設定 ★9年間の系統性に配慮がなされている教育課程の編成		
乗入授業	スムーズな移動・調整が可能	スムーズな移動・調整が可能	移動・調整に課題
職員室	1(一体化)	1(一体化)	小1・中1 (分離)
P T A	1(一体化)	1(一体化)	1(一体化)
入学式 卒業式	1年:入学式 6年:前期終了式 7年:進級式 9年:卒業式	小1:入学式 小6:卒業式 中1:入学式 中3:卒業式	小1:入学式 小6:卒業式 中1:入学式 中3:卒業式
学校行事等	1年生(小学校1年生)から9年生(中学校3年生)のすべての学年が参加する。		
地域との協働行事	窓口が1つに集約されることで円滑な対応が可能となる。		各学校における対応となる。

2 義務教育学校と小中一貫校のメリット・課題

■義務教育学校

メリット

- 中1ギャップの緩和・解消が図られる。小学校から中学校への移行期に起こる環境の変化や人間関係のストレスを軽減できます。
- 9年間の系統的な教育課程により学習内容がスムーズにつながり、より効果的な学習が期待できます。
- 小学校と中学校の教員が連携し、教員の専門性向上が図られ、より専門的な指導を提供できます。
- 9年間の一貫した教育により、学習へのモチベーションを維持しやすくなり学習意欲の向上につながります。
- 地域の特性を生かした教育課程を編成しやすくなります。

課題

- 同じメンバーと9年間を過ごすことで、人間関係が固定化し、新たな人間関係を築く機会が減る可能性があります。
- 小学校卒業という区切りがなくなり、次のステージへの期待感が薄れる可能性があります。
- 小学校高学年でリーダーシップを発揮する機会が減る可能性があります。
- 環境の変化が少ないため、変化への対応力を養う機会が減る可能性があります。
- 学級数や生徒数が増える場合、教員の目が細部まで届きにくくなる可能性があります。
- 9年間の一貫教育を効果的に行うためには、教員の負担が増加する可能性があります。

対応策など

各学年で節目となる行事や活動を取り入れたり、小学校と中学校の教員間の連携を密にし、スムーズな接続を促す。9年間を通して、生徒の成長を実感できるような学習活動や進路指導を行う。

小学校高学年や中学生を対象に、リーダーシップ研修やボランティア活動の機会を設け、生徒会活動や委員会活動を活性化し、生徒が主体的に学校運営に関わる機会を増やすなどあげられます。

■小中一貫校

メリット

- 小学校から中学校への接続がスムーズに行うことができ, 中 1 ギャップ, 不登校の減少につながります。
- 小学校時の学習で定着しきれなかった内容を中学校の課程において補うことが容易になります。
- 異年齢とのコミュニケーションの機会が増えます。
- 小学生の中学生へのあこがれや中学生の小さい子への思いやりが育まれます。
- 小学校の時から子どもを見続けている先生が中学校にもいるので安心があります。

課題

- 小学校と中学校の節目がなくなり, 新たな気持ちの切り替えや進学する充実感がなくなる可能性があります。
- 小学生が中学生をこわがってしまうのではないかという可能性があります。
- 小学校と中学校の組織文化, 習慣の違いが大きく, その調整に時間がかかる可能性があります。

対応策など

メリット, デメリットが表裏の関係にあるものに関しては, メリットを伸ばすことでデメリットへの対応が可能と考えています。

また, 小中一貫教育推進校といっても基本的には小学校と中学校なので, それぞれ入学式, 卒業式があります。

節目がなくなるという心配を含め, さまざまな教育諸問題に対し, 小学校と中学校が連携・協力して問題解決をしていくのが, 小中一貫教育でもあります。

デメリットに関しては, 学校運営や生徒指導を行う中で対応できるものと考えています。